

令和7年度

団体営御木屋地区土地改良事業計画書
(防災重点農業用ため池緊急整備事業)
ため池総合整備工事(一般整備型)

都道府県名：福岡県
地区名：御木屋地区
所在地：宗像市野坂
事業主体：宗像市

目 次

第1章	目 的	1		第6節	地域環境の概況	22
第2章	地域及び地積	1		1	植物、動物等生態系の概要	22
第1節	地 域	1		2	その他の地域環境の概要	22
第2節	地 積	2		第4章	一 般 計 画	23
第3章	現 況	3		第1節	事 業 計 画 の 要 旨	23
第1節	気 象 及 び 海 象	3		1	要 旨	23
1	一 般 気 象	3		2	事 業 別 面 積	23
2	特 殊 気 象	3		第2節	営農計画及び土地利用計画	24
3	海 象	4		1	営農計画の概要	24
第2節	土 地 状 況	4		2	土 地 利 用 区 分	24
1	地形、土壌及び侵蝕の程度	4		3	作 付 方 式	25
2	土 地 分 類	6		4	生 産 計 画	26
3	土 地 利 用 の 状 況	7		5	労 働 改 善 計 画	27
4	土 地 所 有 の 状 況	8		6	級地別土地利用区分	28
第3節	水 利 状 況	9		7	土 地 配 分 計 画	29
1	用 水 状 況	9		第3節	用 水 計 画	29
2	排 水 状 況	13		1	計 画 基 準 年	29
3	河 川 の 現 況	16		2	計 画 か ん が い 方 式	29
第4節	道 路 現 況	17		3	計 画 用 水 系 統	29
1	道 路 概 況	17		4	計 画 用 水 量	30
2	主 要 道 路 一 覧 表	17		5	水 源 計 画	32
第5節	地 域 農 業 の 概 況	18		第4節	排 水 計 画	37
1	産 業 別 就 業 人 口	18		1	計 画 基 準 雨 量	37
2	経 営 耕 地 広 狭 別 農 家 数 及 び 耕 地 の 分散状況並びに専兼業別農家数	19		2	計 画 排 水 方 式	37
3	動 力 農 機 具 及 び 主 要 家 畜 頭 数	19		3	計 画 排 水 系 統	37
4	主 要 作 物 作 付 状 況	20		4	計 画 排 水 量	38
5	農 業 の 動 向	21		5	排 水 対 策	39
				6	湛 水 検 討	41

第5節	道 路 計 画	42
1	道 路 及 び 索 道	42
2	路 線 配 置 図	43
第6節	農 用 地 造 成 計 画	44
1	農 用 地 造 成 計 画	44
2	土 壌 改 良	44
第7節	洪 水 調 節 計 画	45
1	計 画 基 準 雨 量	45
2	計 画 洪 水 量 及 び 調 節 量	45
3	貯 水 池	45
4	洪 水 調 節 検 討	46
5	管 理 計 画	46
第8節	干 拓 計 画	47
第9節	農 用 地 整 備 計 画	48
1	区 画 整 理	48
2	暗 渠 排 水	50
3	客 土	51
4	農 地 保 全	51
第10節	老 朽 た め 池 改 修 計 画	52
1	洪 水 吐 改 修 計 画	52
2	堤 体 補 強 計 画	52
3	取 水 施 設 改 修 計 画	52
第5章	主 要 工 事 計 画	53
第1節	用 水 施 設	53
1	貯 水 池	53
2	頭 首 工	53
3	揚 水 機	54
4	用 水 路	54
5	そ の 他 か ん が い 施 設	54

第2節	排 水 施 設	55
1	排 水 水 門	55
2	排 水 機	55
3	排 水 路	56
4	そ の 他 排 水 施 設	56
第3節	道 路 及 び 索 道	57
1	道 路	57
2	索 道	58
第4節	農 用 地 造 成	59
1	農 用 地 造 成	59
2	土 壌 改 良	60
第5節	洪 水 調 節 施 設	61
1	貯 水 池	61
2	頭 首 工 及 び 導 水 施 設	61
第6節	干 拓 施 設	62
1	堤 防	62
2	潮 止 め	62
3	付 属 施 設	62
4	埋 立	62
第7節	農 用 地 整 備 施 設	63
1	区 画 整 理	63
2	暗 渠 排 水	64
3	客 土	65
4	除 礫	65
5	農 地 保 全	66
第8節	老 朽 た め 池 改 修 施 設	67
1	貯 水 池	67
2	堤 体 補 強 施 設	67
第6章	附 帯 工 事 計 画	68
第7章	工 事 の 着 手 及 び 完 了 の 予 定 時 期	68

第8章	環境との調和についての配慮に関する事項	69
第1節	配慮の対象	69
1	動物	69
2	植物	69
3	その他	69
第2節	配慮の考え方	69
1	施工上の配慮	69
2	施設計画上の配慮	69
第9章	換地計画の概要	70
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	70
第2節	換地区の設定	70
1	換地区の名称、所在、面積	70
2	換地区を設定する理由	70
第3節	換地計画樹立の基本方針	70
1	従前の土地の面積の基準	70
2	用途別予定地積	71
3	農用地集団化の方針	72
4	非農用地の換地方法	72
第4節	土地の評価及び清算の方法	73
1	評価の方法	73
2	清算の方法	73
第5節	換地計画樹立の年度計画	73
第6節	換地処分の特則	73
第10章	事業費の総額及び内訳	74
第11章	効果	74
第12章	他の事業との関係	75
第13章	現況・計画図面	75

第1章 目的

- (1) 必要性 宗像市野坂に位置する御木屋池は、かんがい用ため池として1823(文政6)年に築造されたものである。本地区のため池の現況堤体は老朽化により耐震性能が不足しているため、耐震補強工事が必要である。なお、現況洪水吐は本堤右岸地山部に設置された側水路型の洪水吐であり、排水能力を満足している。またコンクリート表面には欠損や摩耗などの老朽化は見られず、概ね良好な状態であり改修の必要はない。
- 取水施設には緊急放流栓用施設は設けられていないが、φ200×4孔の取水バルブを全開することにより24時間で所定の水位まで放流できる能力を有しており、ゲート・開閉器ともに健全な状態であることから改修の必要はない。
- (2) 緊急性 現況堤体は老朽化により耐震性能が不足しており、地震発生時に決壊の恐れがある。万が一決壊するという事態になれば、ため池下流側の集落・農地に甚大な被害を与えることとなるため、早急に堤体の防災工事に着手する必要がある。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
農村地域防災減災事業(ため池整備事業)	受益地：福岡県宗像市野坂
	野坂地区は宗像市役所から南へ約2kmの丘陵地の谷部に位置する。下流側の受益地は平坦な圃場整備地である。

第2節 地 積

(第2表)

事業名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	市町村名							
農村地域防災減災事業(ため池整備事業)	宗像市	37.7	-	-	-		37.7	
	計	37.7	-	-	-		37.7	
合計		37.7	-	-	-	0.0	37.7	

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名	飯塚測候所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	1935～2019	4月～9月	10月～3月		
平均気温 (°C)		20.9	7.4	15.3	
降水量	平均 (mm)	1,369	420	1,789	
	基準年 (mm)	-	-	-	
降水日数	平均 (日)	112	91	203	
	基準年 (日)	-	-	-	
根 雪 期 間		月 日	～ 月 日	日間	
無 霜 期 間		月 日	～ 月 日	日間	
最 多 風 向		南	最大風速 (風向)	24.2 m/s (南南西)	最多風向発生時期 8～9月 最大風速発生年月日 昭和31年8月17日

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 飯塚測候所	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	数量	年月日	発生確率												
観測期間 1935～2019															
最大日雨量 (mm)	338.0	S30.7.6	—	301.8	S16.6.26	—	291.8	S24.8.17	—	289.5	H21.7.24	—	267.0	H15.7.9	—
最大時間雨量 (mm)	101.0	H21.7.24	—	83.0	H15.7.19	—	79.0	H18.8.26	—	72.5	S48.7.31	—	69.0	H25.8.22	—
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
最大連続雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
最大連続干天日数 (日)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3. 海 象

(第3表-3)

観測所名		既往最高 潮 位 (m)	さく望平均 満 潮 位 (m)	上下弦平均 満 潮 位 (m)	平均潮位 (m)	上下弦平均 干 潮 位 (m)	さく望平均 干 潮 位 (m)	既往最低 潮 位 (m)	備 考
観測期間	年～ 年								
	該当なし								

第2節 土 地 状 況

1. 地形, 土壌及び侵蝕の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田					畑・その他							受益地標高 (m)		備 考		
		1/1,000 以下	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8°～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計		最 高	最 低
										8°～ 10°	10°～ 15°	8°～ 15°						
農業用ため池整備事業	面積 (ha)		37.7				37.7	37.7							37.7	59.0	14.8	
	比率 (%)		100				100	100							100			
合 計	面積 (ha)		37.7				37.7	37.7							37.7			
	比率 (%)		100				100	100							100			

(第4表-1-2)

土 壤 統 (区) 名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表										面 積 (ha)		備 考	
	土 壤 断 面							堆 積 様 式	母 材	事 業 名		計		
	色	腐 植 層	礫 層	酸 化 沈 殿 物	土 性					泥 炭 層 黒 泥 層 及 び グライ層	た め 池 整 備 事 業			
					表 土	下 層 土								
				一 層	二 層	三 層								
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.7		37.7	
計											37.7		37.7	

(第4表-1-3)

事業名	区分	土 壌 の 流 亡 率				年 平 均 流 亡 速 度				ガリ浸食の程度		備 考
		0	0～ 25%	25～ 50%	50% 以上	0	3mm 未満	3～ 5mm	5mm 以上	中程度 のもの	大なる もの	
	面積 (ha)	該当なし										
	比率 (%)											

2. 土 地 分 類

(第4表-2-1)

市町村名	級地別	農 用 地 造 成										計 (ha)	備 考	
		一級地	二 級 地				三 級 地			四 級 地				
			※ (ha)	3°～ 0° (ha)	0°～ 12° (ha)	12°～ 15° (ha)	※ (ha)	15～ 20° (ha)	20°～ 25° (ha)	25°～ 30° (ha)	※ (ha)			30° 以上 (ha)
		該当なし											※ は傾斜以外の要因によるもの	
	計													

(第4表-2-2)

市町村名	級地別	干 拓					備 考
		一 級 地 (ha)	二 級 地 (ha)	三 級 地 (ha)	四 級 地 (ha)	計 (ha)	
		該当なし					
	計						

3. 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	市町村名	耕地						山林		採草放牧地	原野	その他	計	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭材 (ha)					
農業用ため池整備事業	宗像市	37.7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37.7	
	計	37.7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37.7	
	計													
	計													
合計		37.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37.7	

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所有別	個人有	国有	県有	町有	計	備考
	区分						
農業用ため池整備事業	面積 (ha)	37.7				37.7	
	受益者数 (人)	68				68	
	筆数 (筆)	148				148	
	権利関係						
	備考 (関係戸数)						
	面積 (ha)						
	受益者数 (人)						
	筆数 (筆)						
	権利関係						
	備考 (関係戸数)						
合計	面積 (ha)	37.7				37.7	
	受益者数 (人)	68				68	
	筆数 (筆)	148				148	
	権利関係						
	備考 (関係戸数)						

第3節 水利状況

1. 用水状況

(1) 用水状況

御木屋池を主水源として、受益地 37.7 haをかんがいしている。

最大取水量 0.134 m³/S

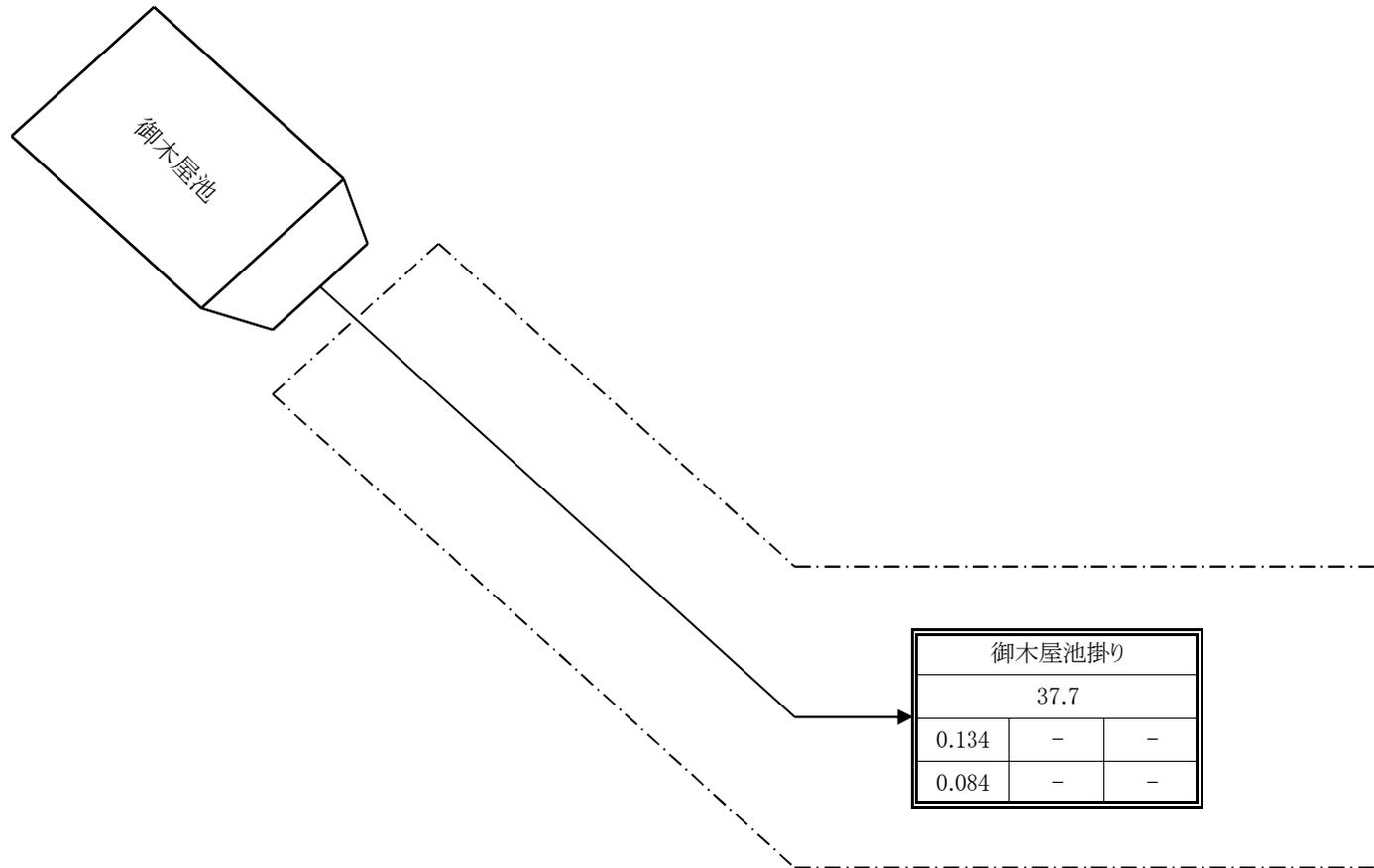
(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量	備考
		40ha以上		40~5ha		5ha未満									
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	m ³ /s	
農村地域防災減災事業	貯水池	1	37.7					1	37.7			1	0.134	0.134	
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計	1	37.7					1	37.7			1	0.134	0.134	
	貯水池														
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計	0	0												
合計	貯水池														
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計	0	0												
合計	1	37.7					1	37.7			1	0.134	0.134		

現況用水系統図



凡 例								
記 号	名 称							
————	既 設 水 路							
○——○	頭 首 工							
▽	貯 水 池							
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td></tr> <tr><td>(ニ)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td></tr> <tr><td>(ヘ)</td></tr> <tr><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 外
(イ)								
(ロ)								
(ハ)								
(ニ)								
(ホ)								
(ヘ)								
(ト)								
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td></tr> <tr><td>(ニ)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td></tr> <tr><td>(ヘ)</td></tr> <tr><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 内
(イ)								
(ロ)								
(ハ)								
(ニ)								
(ホ)								
(ヘ)								
(ト)								
(イ)	路 線 名							
(ロ)	灌 漑 面 積							
(ハ)	代 掻 期 粗 用 水 量							
(ニ)	代 掻 期 利 用 可 能 量							
(ホ)	普 通 期 粗 用 水 量							
(ヘ)	普 通 期 利 用 可 能 量							
(ト)	不 足 水 量							

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年 又は 更新	改修を必要とする理由	備考
	施設名							
農村地域防災減災事業	貯水池	1	37.7	均一型	31,000m3	1823年	堤体の老朽化に伴う耐震性能不足	
	井堰							
	自然取入口							
	揚水機							
	用水路							
	その他							
	計	1	37.7		31,000m3			
	貯水池							
	井堰							
	自然取入口							
	揚水機							
	用水路							
	その他							
	計							
	貯水池							
	井堰							
	自然取入口							
	揚水機							
	用水路							
	その他							
	計							
合計	1	37.7		31,000m3				

(3) 用水に関する被害状況

(7) 用水不足による被害状況

(第5表-3-1)

事業名	項目 系統名	かんがい 面積 (ha)	現況 必要水量 (千 m^3)	不足水量				平均減産量 (t)		備考
				かんがい期最大不足水量		かんがい期総不足水量		作物名	減産量	
				平均 (m^3/s)	基準年 (m^3/s)	平均 (千 m^3)	基準年 (千 m^3)			
該当なし										
	計									
	合計									

(イ) その他の被害状況

(第5表-3-2)

事業名	時期別	かんがい 面積 (ha)	水温(°C)		水質	被害量 (t)	備考
			最高	最低			
該当なし							

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

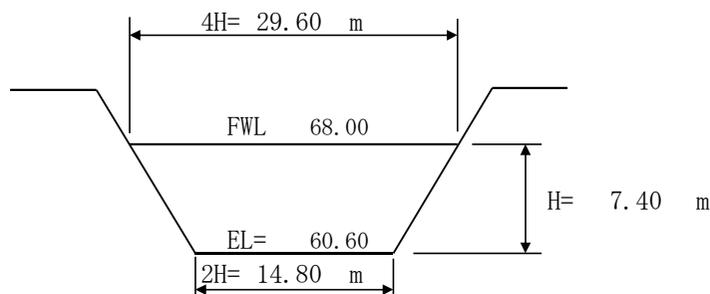
(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積(ha)				想定被害額(千円)						人命 (人)	備考
	田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計		
農村地域防災減災事業	84.35	0.00	61.05	145.40	68,292	416,431	284,767	729,522	1,481,445	2,980,457	48	
計	84.35	0.00	61.05	145.40	68,292	416,431	284,767	729,522	1,481,445	2,980,457	48	

(5) 原因究明

ため池の老朽化に伴う耐震性低下により、地震時の崩壊などが決壊の原因となることは十分予想される。

本溜池が決壊すれば約149千m³の貯留水が氾濫し、農地、農業用施設等多大の被害が及ぶことになる。よって、溜池決壊における被害を未然に防止する目的で早急な改善が望まれる。



$$\cdot \text{総流出量} = \text{ため池貯水量} = 149,000 \text{ m}^3$$

・流出洪水量

$$Q = q_1 + q_2$$

$$\text{但し } q_1 = 4.5 \cdot H^{5/2} = 4.5 \times 7.40^{5/2} = 670.33 \text{ (m}^3/\text{S)}$$

$$q_2 = 8.132 \text{ (m}^3/\text{S)} \quad \text{洪水吐設計洪水量}$$

$$Q = 670.33 + 8.132 \approx 678.5 \text{ (m}^3/\text{S)}$$

$$\text{よって } Q = 678.5 \text{ (m}^3/\text{S)}$$

2. 排水状況
 (1) 排水系統

該当なし

(2) 排水施設
 (7) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目		排水面積						計	排水慣行 (m ³ /s)	現況排水能力 (m ³ /s)	備考
			500ha以上		100～500ha		100ha未満					
	施設名		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha		
	自然	排水路										
		水門										
	機械	排水機										
		水門及び排水機										
		排水路及び排水機										
	計											
	自然	排水路										
		水門										
	機械	排水機										
		水門及び排水機										
		排水路及び排水機										
	計											
	合計											

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-5)

事業名	項目		施設名 又は 箇所数	構造	規模	新設 又は 更新	改修を必要とする理由	備考
	施設名							
	自然	排水路						
		水門						
	機械	排水機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
計								
	自然	排水路						
		水門						
	機械	排水機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
計								
	自然	排水路						
		水門						
	機械	排水機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
計								
合計								

(3) 排水に関する被害状況

(第5表-6)

事業名	項目 系統名	排水面積 (ha)	降水量 (mm)		湛水状況				乾湿状況 (ha)						平均減産量 (t)		備考	
					湛水深 (cm)	湛水時間 (hr)	湛水面積 (ha)	湛水量 (千m ³)	田		畑		その他					
	乾	湿	乾	湿					乾	湿	作物名	減産量						
	平均	基準年																
			平均															
			基準年			該当なし												
	計		平均															
			基準年															
合計			平均															
			基準年															

3. 河川の現況

(1) 河川の現況

(第5表-7)

項目 河川名	流路状況	勾配	断面	安全洪水量 (m^3/s)	既往最大洪水量 (m^3/s)	備考
		該当なし				

(2) 洪水に関する被害状況

(第5表-8)

項目 区分	農用地 (百万円)	農用施設 (百万円)	作物 (百万円)	公共施設 (百万円)	備考
過去の最大被害額		該当なし			
平均被害額					

第4節 道路状況

1. 道路概況

該当なし

2. 主要道路一覧表

(第6表)

	路線名	管理 区分別	延長(m)	幅員(m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効			

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

市町村名	項目	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	供給水道業 (人)	電気ガス熱 運輸通信業 (人)	御売小売業飲食店 (人)	金融保険業 (人)	不動産業 (人)	サービス業 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備考
宗像市		40,472	885	12	312	7	2,140	6,224	180	2,822	6,158	784	636	16,643	2,111	1,558	出典； R.2年 国勢調査報告 15歳以上就業者
計		40,472	885	12	312	7	2,140	6,224	180	2,822	6,158	784	636	16,643	2,111	1,558	
比率 (%)		100	2.2%	0.0%	0.8%	0.0%	5.3%	15.4%	0.4%	7.0%	15.2%	1.9%	1.6%	41.1%	5.2%	3.8%	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専兼業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村名	農家総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家数(戸)											1戸当たり平均農用地面積(ha)					耕地の分散状況		専兼業別農家数(戸)		備考												
		例外規定の適用を受けるもの	0.5	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	20.0	自給的農家	田	畑	樹園地	小計	草地	計	団地数	1戸当たり面積(a)	専業		兼業											
			ha未満	~1.0	~1.5	~2.0	~3.0	~5.0	~10.0	~20.0	ha以上												第一種	第二種										
宗像市	480		78	116	58	49	51	51	39	31	7																							平成27年農林業センサス
計	480	0	78	116	58	49	51	51	39	31	7																							
比率(%)	100	0%	16%	24%	12%	10%	11%	11%	8%	6%	1%																							

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具								主要家畜								備考
	田植機		トラクタ		コンバイン				乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏		
	数量(台)	戸数(戸)	数量(台)	戸数(戸)	数量(台)	戸数(戸)	数量(台)	戸数(戸)	数量(頭)	戸数(戸)	数量(羽)	戸数(戸)	数量(頭)	戸数(戸)	数量(羽)	戸数(戸)	
宗像市	410	402	724	505	393	371			0	2	0	4	0	0	165	7	平成27年農林業センサス
計	410	402	724	505	393	371			0	2	0	4	0	0	165	7	
100戸当たり数量(台, 頭)	102		143		106				0		-		-		-		
利用戸数割合(%)																	

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名		宗像市						計	平均	作付率	備考
総耕地面積 (ha)		2,000									
総本地面積 (ha)		1,470									
作付名	区分	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	(%)							
	田	表作	水 稻	928	504						46%
大 豆			207	110						10%	
裏作		大 麦	169	384						8%	
		小 麦	211	492						11%	
小 計		1,515								76%	
畑	春夏作										
	秋冬作										
	小 計										
樹園地		梅									
		みかん									
		柿									
		ぶどう									
		なし									
	小 計										
計		1,515								76%	
市町村別延べ作付率(%)		76%									

第69次
九州農林水産
統計年報

5. 農業の動向

(令和5年現在)

(第7表-5)

項目 区分	農 家			土 地			主要作物			大 家 畜			動力農機具			地 域 指 定 等	備 考
		B	A (現在)		B	A (現在)	作物名	B	A (現在)	家畜名	B	A (現在)	農機具名	B	A (現在)		
変化の 状 況 (C年を 100と する 指 数)	総農家数	179	83	耕 地	451	81	水 稻	250	0	乳用牛	77	0	トラクター	230	84		
	専業農家数	230	101	田	441	81	麦 類	7180	115	肉用牛	0	0	噴霧機	x	x		
	第一種 兼業農家数	102	64	畑	727	85	大 豆	0	0	豚	0	0	動力田植機	158	77		
	第二種 兼業農家数	124	76	樹園地	400	81				採卵鶏	167	165	コンバイン	164	81		
	農 業 従 事 者 数			草 地													
変化の 理 由	農産物価格の低迷、後継者不足などから離農する人が増えている。			住宅地の増加に伴い、農用地が減少している。			水稻の作付け面積は、減少している。			家畜・養鶏等の実績はない。			農地減少に伴い、減少傾向である。			農林業 センサス 2015 2010 A: 2015 B: 2010 C: 2005	

第6節 地域環境の概況

宗像市は、平成15年、17年に旧宗像市、旧玄海町、旧大島村が合併し誕生した。

宗像市地区（宗像市野坂）が存在する旧宗像市地域は、福岡及び北九州市両政令指定都市のほぼ中間に位置し、三方を山に囲まれ、中央部に平野を形成する盆地状の形成をなし、中央を二級河川の釣川を流れる自然豊かなまちである。

市域のほとんどが釣川水系に含まれる。釣川は、宗像市吉留の山地にその源を発し、朝町川、本地区を流れる山田川などの多数の支川を合流し、玄海灘に注いでいる。湖沼については、大きな天然の湖沼はなく、ほとんどが農業用ため池である。平成15年に施工された市のため池条例により、ため池保全の推進を図っている。

植生の分布状態は、ほぼ、地形や標高に対応している。平野部は水田と旧市街地で植生に乏しく、山麓緩斜面や段丘状の微高地は畑や小規模開発で断片的森林植生が残存し、丘陵や山地部は樹林で、部分的に果樹園となっている。樹林の大半はスギやヒノキの植林で、これに照葉樹林、竹林、若齢の落葉樹林などが混在している。自然林は、湯川山、孔大寺山、旧津屋崎町との町境部分にまとまった広さがある他は、神社の森として断片的に残存している程度である。また、山麓部には主として近世に築造されたため池が多数散在し、釣川水系の河岸・河床とともに水生植物群落がみられる。河川の水生植物群は、近年の河川改修で出現植物の種類が減少し、分布域も狭められている。

分布もしくは分布の可能性のある気象動物としては、鳥類でカラスバト、コマドリ、ハヤブサ、カササギ、両生類でカスミサンショウウオ、水生動物でニッポンバラタナゴ、メダカ、マルタニシ、ホウネンエビ、ゲンジボタルなどがあげられている。

本市の豊かな自然は、多様な生物の生育・生息の場となっており、環境省や福岡県の「レッドデータブック」に掲載されている絶滅のおそれのある野生生物も多く確認されている。

近年では、「経済社会の発展」と「環境課題の解決」を相乗的に向上させていくSDGsの考え方や、「人の健康」、「動物の健康」、「環境の健全性」を一体的に守ることで健康で健全な社会を形成するワンヘルスの考え方など、分野横断した様々な視点からのコベネフィットの在り方が模索されるようになった。このような中、政策を検討する上での基盤となる資源として、地域の自然環境がますます注目されるようになっている。

自然環境分野の環境目標は「豊かな自然を守り育てる」である。目指す姿を“清らかな水、豊かな海、生き生きとした里地・里山が広がる風景の中に多様な生物が生息し、人と自然が共生しているまち”とし、「清らかで親しみのある水辺づくり」「豊かさを守り育む海づ

くり」、「人と自然が共に生きる里地・里山づくり」、「多様な生物が息づくまちづくり」に、俯瞰的な視点からその他分野との連携・協働を見据えて取り組むものとする。

第4章 一般計画
第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

項 目	事業を必要とする理由	改修・補強工法
取水施設		
洪水吐		
堤体又は基礎からの漏水状況		
堤 体	○耐震性能が不足しており、地震時には破堤の恐れがある。	○堤体改修工法：本堤……改良土置換工法＋押さえ盛土工法 副堤……改良土置換工法
その他被災歴・改修歴 ・溜池依存の状況等 特記事項		

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分	農村地域防災減災事業							農村地域防災減災事業							計	備 考									
	田	輪換耕地	普通畑	牧草畑	果樹園	その他	小計	田	輪換耕地	普通畑	牧草畑	果樹園	その他	小計											
事業目的	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)		
災害防止	40.9	—	—	—	—	—	40.9																	40.9	
計	40.9	—	—	—	—	—	40.9																	40.9	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

本事業により御木屋池の貯水機能を回復し、水供給の安定化により干害被害を防止する。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	田	輪換耕地	普通畑	牧草畑	果樹園	桑園	その他	小計	原野	山林	(買収) その他	計	備考
	区分	(ha)	(ha)											
農業用ため池整備事業	現況	37.7							37.7				37.7	
	計画	37.7							37.7				37.7	
	現況													
	計画													
	現況													
	計画													
計	現況	37.7							37.7				37.7	
	計画	37.7							37.7				37.7	

3. 作付方式

(第9表-2)

事業名	項目	経営類型	土地利用区分	1 年 目												2 年 目												備考
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
農業用	田(表)	水稲					○	△	—	—	—	—	×	×					○	△	—	—	—	—	×	×		○△× 播移収 種植穫
	田(裏)																											
池整備	田(表)	水稲					○	△	—	—	—	—	×	×					○	△	—	—	—	—	×	×		
	田(裏)																											

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	土地利用区分	項目	作物名	作付面積 (ha)			作付率		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備考		
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積当たり収量増加			
				農業用ため池整備事業	輪換	表作	水稲	37.7	37.7	-	100.0	100.0	495	495	-	186.6		186.6	-
	小計		37.7			37.7	-	100.0	100.0	495	495		186.6	186.6	-	-	-		
耕地	裏作	麦(小麦)													-	-	-		
		小計														-	-	-	
		計			37.7	37.7	-	100.0	100.0	495	495		186.6	186.6	-	-	-		
普通畑	春夏作																		
	秋冬作																		
		計																	
合計				37.7	37.7	-	100.0	100.0	495	495	-	186.6	186.6	-	-	-			

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地利用区分		作物名	作物面積 (ha)	単位面積当たり労働投下量 (hr/ha)				備考
					区分	現況	計画	増減	
	輪 換 耕 地	表 作							
		裏 作							
		計							
	普 通 畑	表 作							
		裏 作							
		計							
	合 計								

6. 級地別土地利用区分

(第9表-5)

区分 級地名		農用地造成 (ha)					干 拓 (ha)					合 計
		一級地	二級地	三級地	四級地	計	一級地	二級地	三級地	四級地	計	
土地利用区分												
農 地	田											
	輪換耕地											
	畑											
	(普通畑)											
	(牧草畑)											
	樹園地											
	(果樹園)											
	(桑園)											
その他												
計												

7. 土地配分計画

(第9表-6)

区分	項目 配分戸数 (戸)	地 目 別 配 分 計 画 (ha)							備 考
		田	輪換耕地	畑			計		
				普通畑	牧草畑	樹園地			
増 反		()	()	()	()	()	()	()	
入 植		()	()	()	()	()	()	()	

第3節 用水計画

1. 計画基準年

—

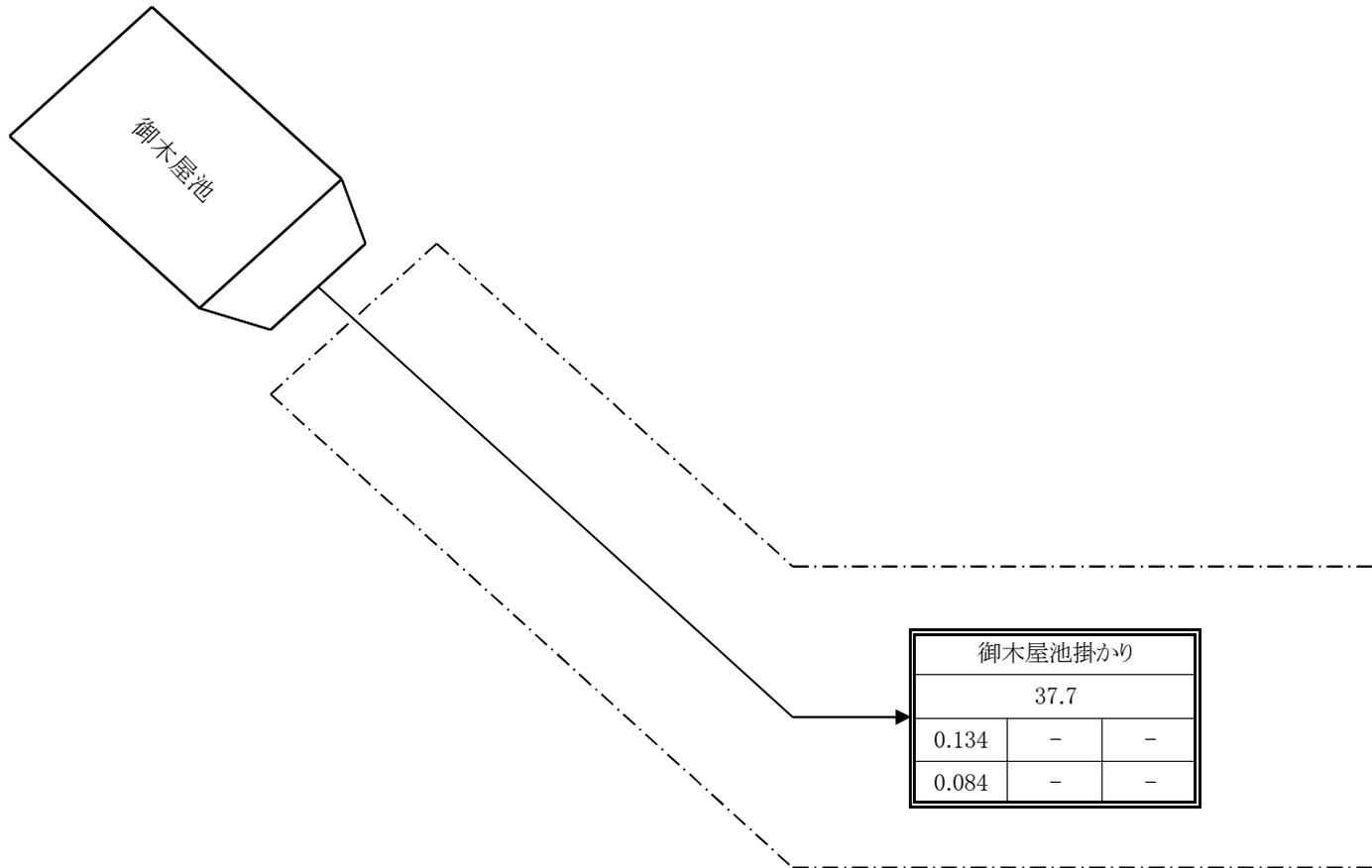
2. 計画かんがい方式

受益地区内水路による自然かんがい

3. 計画用水系統

受益地上流に位置する御木屋池を主水源とし、37.7haをかんがいます。

計画用水系統図



凡 例								
記 号	名 称							
————	既 設 水 路							
○——○	頭 首 工							
▽	貯 水 池							
<table border="1" data-bbox="1765 715 1912 804"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td></tr> <tr><td>(ニ)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td></tr> <tr><td>(ヘ)</td></tr> <tr><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 外
(イ)								
(ロ)								
(ハ)								
(ニ)								
(ホ)								
(ヘ)								
(ト)								
<table border="1" data-bbox="1765 842 1912 932"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td></tr> <tr><td>(ニ)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td></tr> <tr><td>(ヘ)</td></tr> <tr><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 内
(イ)								
(ロ)								
(ハ)								
(ニ)								
(ホ)								
(ヘ)								
(ト)								
(イ)	路 線 名							
(ロ)	灌 漑 面 積							
(ハ)	代 掻 期 粗 用 水 量							
(ニ)	代 掻 期 利 用 可 能 量							
(ホ)	普 通 期 粗 用 水 量							
(ヘ)	普 通 期 利 用 可 能 量							
(ト)	不 足 水 量							

4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

項目 系統図	種別	面積(ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m ³ /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
		事業名		普通期	代掻期	面積 (ha)	平均かん水深 一日当たり計画 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	平均かん水深 一日当たり計画 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	単位用水量 計画平均 (mm/日)	面積 (ha)			平均 (m ³ /s)	最大 (m ³ /s)	
		農業 整備 ため池	事業	計画 単位 平均 水量 (mm/日)	計画 代掻 単位 水量 (mm/日)														
御木屋池掛り		37.7		15.0	150.0	40.86									15	0.084	0.134		

(2) 営農飲雑用水

(第10表-1-2)

区 分	利用区分	対象面積 (ha)			日 当 給 水 量		補給回数 (回)	関係戸数 (戸)	備 考
		事 業 名		計	単 位 給 水 量	最 大 給 水 量			
					(1/s)	(1/s)			

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

(第10表-3)

項目 貯水池名	流域面積(km ²)		かんがい面積 (ha)			純貯水量 (千m ³)	利用貯水量 (千m ³)	利用回数 (回)	最大取水量 (m ³ /s)	備考
	直	間	事業名		計					
			ため池 整備事業							
御木屋池	0.209	-	37.7	-	37.7	149.0	-	4	0.024	

(エ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積 (ha)		計	最大通水量 (m^3/s)	延長 (m)	構造	備考
	事業名						

(オ) その他の水源施設

該当なし

(3) 水温水質

該当なし

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

該当なし

2. 計画排水方式

該当なし

3. 計画排水系統

該当なし

4. 計画排水量

(第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)		計	流域面積 (km ²)		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備考		
	事業名			山地	平地		山地	平地	山地	平地	山地	平地	山地	平地			山地	平地
														自然排水	機械排水			

5. 排水対策

(1) 排水水門

(第11表-2)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)			計 画		排 水 本 川			備 考
		事業名		計	排水量 (m ³ /s)	地区内 たん水深 (m)	名 称	計 画 洪水量 (m ³ /s)	計 画 洪水位 (m)	
計										

(2) 排水機

(第11表-3)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)			計画排水量		排 水 機				備 考
		事業名		計	排水量 (m ³ /s)	地区内 たん水深 (m)	実揚程 (m)	排水量 (m ³ /s)	台 数 (台)	全排水量 (m ³ /s)	
計											

(イ) その他

該当なし

6. 湛水検討

	湛水状況			許容湛水深以上		排水系統	備考
	面積	最大湛水深	最大湛水時間	面積	時間		
現況	ha	cm		ha			
計画							

第5節 道路計画

1. 道路及び索道

(1) 道路

(第12表-1)

項目 路線名	幅 (有効) × 延長 (m) (km)	構造	既設道路との関係	備考
計				

(2) 索 道

(第 1 2 表- 2)

項目 路線名	能力 (t/hr)	延長 (m)	接続道路名	備 考

2. 路線配置図

該当なし

第6節 農用地造成計画

1. 農用地造成計画

(1) 農用地造成計画

(第13表-1)

項目 土地利用区分	主要作目	自然傾斜	耕地の形態	標準区画の形状	備考

(2) 末端道水路配置図

2. 土壌改良

(第13表-2)

項目 区分	面積 (ha)	土壌 統(区)名	pH		置換酸度 (Y ₁)	りん酸 吸収係数 (mg/100g)	ha当たり所要量			備考
			H ₂ O	KCI			石灰 (t)	りん酸質 資材 (t)	有機質 資材 (t)	

第7節 洪水調節計画

1. 計画基準雨量

該当なし

2. 計画洪水量及び調節量 (略)

(第14表-1)

地点	流域面積 (km ²)	洪水 到達時間 (hr)	計画洪水量 (m ³ /s)	安全洪水量 (m ³ /s)	必要調節量 (m ³ /s)	ピーク時 調節量 (m ³ /s)	ピーク時 調節後流量 (m ³ /s)	調節後 最大流量 (m ³ /s)	調節前後の 最大 流量の差 (m ³ /s)	最大 調節量 (m ³ /s)

3. 貯水池

(第14表-2)

項目 貯水池名	流域面積 (km ²)		計画洪水量 (m ³ /s)	貯水量 (千m ³)			計画調節 流量 (m ³ /s)	可能調節 流量 (m ³ /s)	備考
	直接	間接		有効	洪水調節容量	他目的			

4. 洪水調節検討

(1) 河川改修計画との関係

該当なし

(2) 洪水調節が下流に及ぼす影響

該当なし

(3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討

該当なし

5. 管理計画

(1) 管理機構

該当なし

(2) ダム管理操作上の各種基準

該当なし

(3) 洪水調節要領

該当なし

第8節 干拓計画

(第15表)

項目 名称	延長 (m)	計画高潮(水位) (T.P.m)	風向及び対岸距離 (km)	風速 (m/s)	気圧 (mb)	備考
 (This table body is currently empty and crossed out with a diagonal line.) 						

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
計					

(2) 表土扱い

(第16表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備考

(3) 末端道水路配置図

該 当 な し

2. 暗渠排水
 (1) 暗渠排水

(第16表-3-1)

項目 区分	面積 (ha)		計	土 壤 統(区)名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 ($\frac{\text{t}}{\text{s}}/\text{ha}$)	計画後の 地下水位 (m)	集水渠 出口以下 の排水 方法	備 考
	事業名								
計									

(2) 心土破碎

(第16表-3-2)

項目 区分	面積 (ha)		計	土 壤 統(区)名	土 壤 硬 度	備 考
	事業名					
計						

3. 客 土

(第16表-4)

区分	面積 (ha)		土壌統 (区)名	減水深 (mm/日)		作土の厚さ (cm)		10a当たり 客土量 (m ³)	土 壌 の 性 質		備 考
	事業名	計		現況平均	計画平均	現況平均	計画平均		受益地 (%)	採土地 (客土材料) (%)	
計											

4. 農地保全

(1) 防災林

(第16表-5-1)

区分	項目 最大風速 (m/s)	幅 (m)	間 隔 (m)	備 考

(2) 排水工

(第16表-5-2)

名称	項目 基準雨量 (mm/日)	土 性	流出率	排 水 量		備 考
				単位排水量 (m ³ /s/ha)	全排水量 (m ³ /s)	

(3) 浸食（崩壊）防止工

(第16表-5-3)

施設名	項目	位置	支配面積 (ha)	機能	備考

第10節 老朽のため池改修計画

1. 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量

計 画 降 雨	観測機関名 計画基準雨量 計画根拠	下関地方气象台 196.3 mm/hr (1) 200年確率雨量 (A項流量) $\gamma t = 98.4 \text{ mm/hr}$ (2) 既往最大時間雨量 $\gamma t = 101.0 \text{ mm/hr}$ 洪水到達時間19.1分より有効降雨強度 $\gamma t = 146.1 \text{ mm/hr}$ となる。
------------------	-------------------------	---

(2) 計画洪水量

集水面積	直接	20.87 ha	合計
	間接	- ha	20.87 ha
計画洪水量	計算式 流出率 計画洪水量	$Q = 1/3.6 \cdot \gamma e \cdot A \cdot 1.2$ 0.85 (総合流出) 有効強度 $\gamma e = 0.85 \times \gamma t = 0.85 \times 146.1 = 124.2 \text{ mm/hr}$ $Q = 1/3.6 \times 124.2 \times 0.2087 \times 1.2 = 8.640 \text{ m}^3/\text{s}$	

2. 堤体補強計画

- (7) 本堤 堤頂部……改良土置換工 下流側法面……押さえ盛土工
 (i) 副堤 堤頂部……改良土置換工

3. 取水施設改修計画

該当なし (ただし副堤の堤頂部改良土置換工により一部取壊した斜樋を従前のおりに復旧)

第5章 主要工事計画
第1節 用水施設

1. 貯水池

(第17表-1)

名称	型式	流域面積 (km ²)		位置 堤高 (m)	堤長 (m)	堤体積 (千m ³)	基礎地盤 地質	貯水量 (千m ³)		備考
		直接	間接					総貯水量	有効貯水量	
堤体										
洪水吐	型式	洪水量 (m ³ /s)		取水施設	型式	取水量 (m ³ /s)	放流施設	型式	放流量 (m ³ /s)	

2. 頭首工

(第17表-2)

名称	型式	堤高 (m)	堤長 (m)		位置 計	取水位 (m)	取水量 (m ³ /s)	付帯施設	備考
			固定部	可動部					
計									

3. 揚水機

(第17表-3)

項目 名称	位置	揚水量 (m ³ /s)	揚程 (m)		揚水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 (KW)	台数 (台)	

4. 用水路

(第17表-4)

項目 水路名	かんがい面積 (ha)		通水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名	計		開きよ	トンネル その他	計				
計										

5. その他かんがい施設
該当なし

第2節 排水施設

1. 排水水門

(第18表-1)

項目 名称	位置	型式	構造	内水位 (m)	外水位 (m)	排水量 (m ³ /s)	備考
計							

2. 排水機

(第18表-2)

項目 名称	位置	排水量 (m ³ /s)	揚程 (m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 ()	台数 (台)	
計											

3. 排水路

(第18表-3)

項目 水路名	受益面積 (ha)		排水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名	計		開きよ	トンネル その他	計				
計										

4. その他排水施設

該当なし

(2) 道路主要構造物

(第19表-2)

項目 路線名	名稱	規模構造	延長 (m)	箇所数 (箇所)	備考

2. 索道

(第19表-3)

項目 名稱	延長 (m)	高低差 (m)	能力 (t/hr)	原動機		備考
				型式	動力 ()	

第4節 農用地造成

1. 農用地造成

(1) 抜根

(第20表-1)

区分	項目	樹種	樹径 (cm)	ha当たり本数 (本/ha)	面積 (ha)	工法	備考
	計						

(2) 除礫

(第20表-2)

区分	項目	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工法	備考
	計					

(3) 開墾作業

(第20表-3)

区分	項目	面積 (ha)	工法	備考
地目	造成工法			
		該当なし		
	計			

(4) 地目変換

(第20表-4)

区分	項目	面積 (ha)	工法	備考
		該当なし		
	計			

(5) 末端用水路等

(第20表-5)

項目	数量	規模	構造	備考
区分	該当なし			
計				

(6) 末端排水路等

(第20表-6)

項目	数量	規模	構造	備考
区分	該当なし			
計				

2. 土壌改良

(第20表-7)

項目	面積 (ha)	石灰量 (t)	りん酸質資材量 (t)	有機質資材量 (t)	備考
区分					
計					

第5節 洪水調節施設

1. 貯水池

該当なし

2. 頭首工及び導水路

(1) 頭首工

(第21表-2)

名称	位置		堤長 (m)			計画洪水位 (m)	付帯施設	備考
			固定部	可動部	計			
型式	集水面積 (km ²)	堤高 (m)	固定部	可動部	計	計画洪水位 (m)	付帯施設	備考
(This table is currently empty)								

(2) 導水路

(第21表-3)

項目 水路名	通水量 (m ³ /s)	延長 (m)			構造	勾配	備考
		トンネル	その他	計			
(This table is currently empty)							

第6節 干 拓 施 設

1. 堤 防

(第22表-1)

項目 名称	形式	延長 (m)	構 造				原地盤標高(m)		備 考
			堤長標高 (m)	盛土幅 (m)	盛土標高 及び舗装	上流斜面	下流斜面	平 均	

2. 潮 止 め

(第22表-2)

項目 名称	工 法	幅 員 (m)	敷高標高 (m)	潮止め堤標高 (m)	最大流速 (m/s)	床固め構造	備 考

3. 付 属 施 設

該 当 な し

4. 埋 立

(第22表-3)

項目 区分	面 積 (ha)	埋立標高 (m)	埋立土量 (m ³)	施 工 方 法	備 考

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工区名	面積 (ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量 (m ³)	面積 (ha)	土量 (m ³)	

(2) 末端用水路等

(第23表-2)

区分	項目	数量	規模	構造	備考
	計				

(3) 末端排水路等

(第23表-3)

区分	項目	数量	規模	構造	備考
	計				

2. 暗 渠 排 水

(1) 暗渠排水

(第23表-4-1)

項目 区分	面積 (ha)		集 水 渠				排 水 渠						集水渠出口以下 の排水施設			備 考
	事業名	計	勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)	名称	構造	数量 (m/ha)	
計																

(2) 心土破砕

(第23表-4-2)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計					

3. 客 土

(第23表-5)

項目 区分	面積 (ha)		客入土量 (m ³)	土取場土量 (m ³)	運搬距離 (km)	運搬方法	備考
	事業名	計					
計							

4. 除 礫

(第23表-6)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工 法	備 考
計					

5. 農地保全

(1) 防風林

(第23表-7)

項目 区分	幅 (m)	延長 (m)	面積 (ha)	樹種	植栽本数 (本)	備考
		該当なし				
計						

(2) 排水路

(第23表-8)

項目 区分	延長 (m)	流量 (m ³ /s)	構造	備考
		該当なし		
計				

(3) 侵食防止工

(第23表-9)

項目 区分	構造	数量	備考
	該当なし		
計			

第8節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

(第24表)

名称	御木屋池				位置	福岡県宗像市野坂		
	形式	流域 (km ²)	堤高 (m)	堤長 (m)	堤体積 (m ³)	堤体幅 (m)	貯水量 (千m ³)	備考
本堤	均一型	0.2087	9.55	94.8	20,538	4.25	149.0	
	形式		堤高 (m)	堤長 (m)	堤体積 (m ³)	堤体幅 (m)		備考
副堤	均一型		9.60	28.9	4,001	3.60		
	形式							

2. 堤体補強施設

(1) 本堤

天端を改良土置換，下流法尻に押さえ盛土を施す。

(2) 副堤

天端を改良土置換する。

第6章 附帯工事計画

該 当 な し

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工事の着手及び完了の予定

工 期	着手予定	令和7年度	
	完了予定	令和10年度	4ヵ年

2. 工 程 表

(単位：千円)

	全 体	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
撤 去 工	1,000		1,000		
堤 体 工	46,000		27,000	8,000	11,000
取 水 設 備 工	-				
洪 水 吐 工	-				
仮 設 工	54,000		36,000		18,000
測 量 試 験 費	17,000	17,000	-	-	-
用地費及び補償費	1,000	-	200	400	400
小 計	119,000	17,000	64,200	8,400	29,400
工 事 雑 費	2,000	200	1,000	200	600
地 方 事 務 費	6,000	800	2,800	400	2,000
事 業 費	127,000	18,000	68,000	9,000	32,000
同 上 百 分 率	100.0%	14.2%	53.5%	7.1%	25.2%

第8章 環境との調和についての配慮に関する事項

第1節 配慮の対象

1. 動物

- ・ツチガエル、トノサマガエルは御木屋池周辺に生息している可能性があるため、工事開始前に施工対象周辺の現地を調査し、当該生物を近傍の生息可能域への移設又は保護する。

2. 植物

該当無し

3. その他

該当無し

第2節 配慮の考え方

1. 施工上の配慮

- ・工事範囲を最小限にするとともに、もし希少生物を発見した場合は移植、移動を行い代替生息域を確保する。

2. 施設計画上の配慮

- ・工事の施行時期を、生物の生活・生態等を考慮し、なるべく10月以降に実施する。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

該当なし

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称・所在・面積

(第25表-1)

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)

2. 換地区を設定する理由

該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

(第25表-2)

換地区名	地積の基準	

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

該当なし

2. 清算の方法

該当なし

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表-6)

区分 換地区名	一時利用地の 指定予定年度	換地計画の決定 予定年度	換地処分 予定年度	備 考

第6節 換地処分の時期に関する特則

該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

事業名		農村地域防災減災事業（ため池整備事業）	備考
区分		(千円)	
工	事	101,000	
用	地	1,000	
換	地	—	
測	量	17,000	
工	事	2,000	
地	方	6,000	
	計	127,000	
関連事業			

第11章 効 用

(単位：千円) (第27表)

事業名	区分	年総効果（便益）額	年増加農業所得額	備考
	効果項目			
農村地域 防災減災事業	維持管理費節減効果	-6	30	
	災害防止効果(農業関係資産)	32,165	-	
	災害防止効果(一般資産)	61,924	-	
	災害防止効果(公共資産)	30,494		
	合計	124,577	30	

総費用額： 49,112千円 総便益額： 2,560,413千円 総費用総便益比： 52.13 総所得償還率： 9.9%

第12章 他の事業との関係

1. 道路事業等との調整

該当なし

2. 高付加価値農業の営農に必要な対策

(1) 目的

該当なし

(2) 事業内容

該当なし

(第28表)

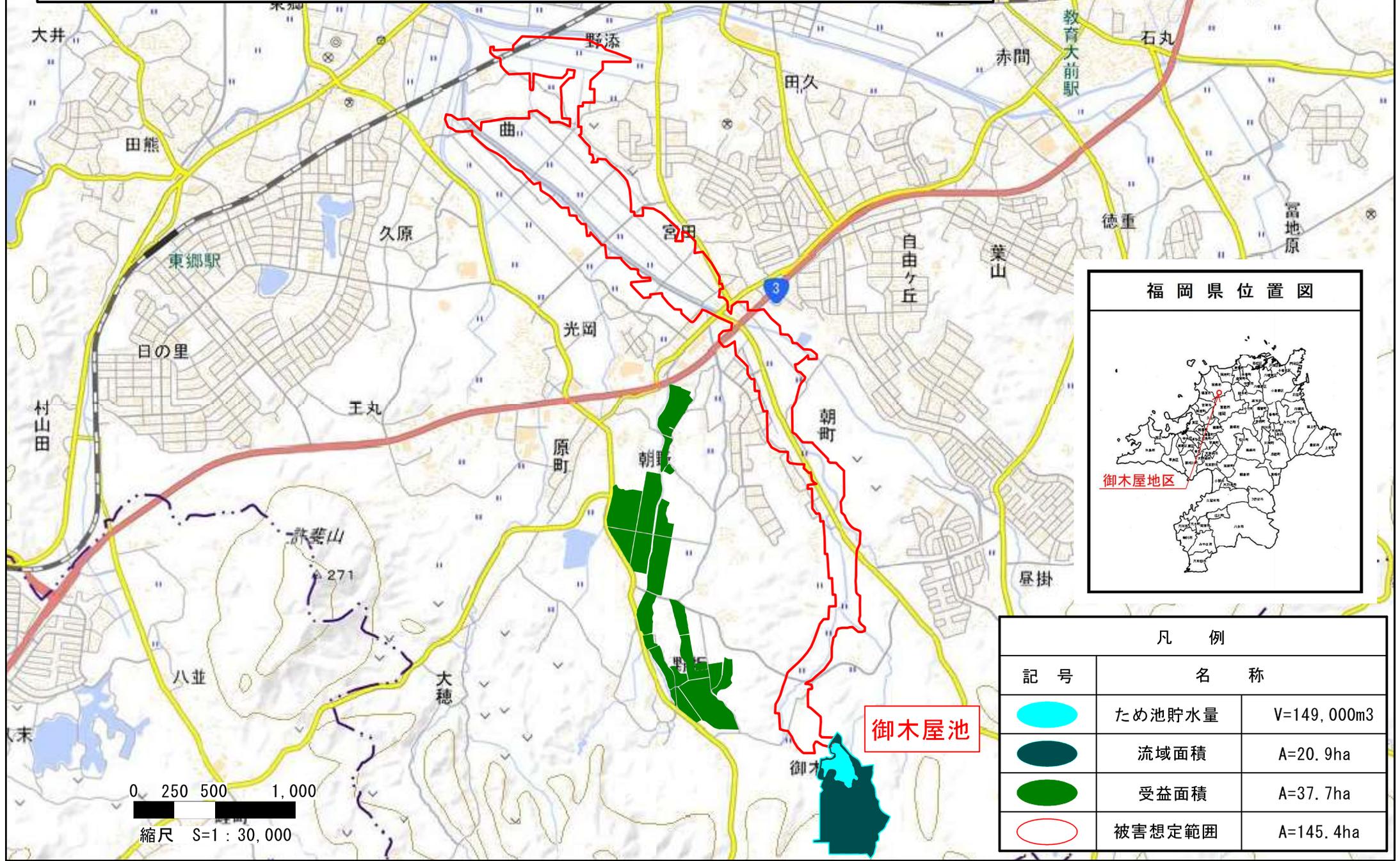
区分	事業名	事業主体	受益面積 (ha)	事業内容

第13章 現況・計画図面

1. 現況・計画平面図

添付図面参照

令和7年度 新規地区
農村地域防災減災事業（防災重点農業用ため池緊急整備事業）御木屋地区 位置図



凡 例		
記 号	名 称	
	ため池貯水量	V=149,000m ³
	流域面積	A=20.9ha
	受益面積	A=37.7ha
	被害想定範囲	A=145.4ha

農村地域防災減災事業 御木屋地区 地区概要図

平面図

S=1:500 (A1)



堤体標準断面図

S=1:200 (A1)

